

大統領府、HFCの使用・排出削減を目的とした民間セクタによる
新たな誓約と連邦省庁による行政計画を発表（10月15日）

大統領府は10月15日、エアコン・冷却・発砲断熱材などに主に使用され、気候変動への影響力が二酸化炭素の1万倍と言われている強力な温室効果ガスであるヒドロフルオロカーボン（hydrofluorocarbon : HFC）の使用及び排出の削減を目的とした、民間セクタによる新たな誓約と連邦省庁による行政計画を発表した。民間セクタでは、店舗内で使用する圧縮機能力2,200英熱量毎時（btu/hr）未満の新しい独立型クーラーを、2016年1月から全てHFCを使用しない機種に交換することを計画するターゲット社（Target）を含む16組織が新たな誓約を発表した。一方、連邦政府側では、「顕著な新規代替政策（Significant New Alternatives Policy : SNAP）」プログラムを通して、気候変動に優しい代替品リストの拡大とHFCの使用・排出削減に継続して取り組む環境保護庁（Environmental Protection Agency : EPA）の他、エネルギー省（Department of Energy）及び国防総省（Department of Defense）が、新たに取り組む行政計画を発表した。さらに大統領府は、2014年9月に発表された民間セクタ22組織による誓約と、EPA、エネルギー省、及び連邦調達規則委員会（Federal Acquisition Regulatory Council）が取り組む行政計画の進捗状況を明らかにしており、この中で、過去1年間に行われた取組みの結果、2025年までに二酸化炭素を1億メートルトン削減するのと同等のHFC消費量が削減されたことが報告されている。

The White House, FACT SHEET: Obama Administration and Private-Sector Leaders
Announce Ambitious Commitments and Robust Progress to Address Potent Greenhouse
Gases

<https://www.whitehouse.gov/the-press-office/2015/10/15/fact-sheet-obama-administration-and-private-sector-leaders-announce>